

福島国見町農業協同組合（JA福島国見町）



代表理事組合長	菊地 太三	役員数	23名
所在地	〒969-17 伊達郡国見町 大字藤田字一丁田三5	理事	18名（うち常勤 1名）
	☎0245-85-2221	監事	5名
設立年月日	昭和40年3月1日	職員数	74名（男48名 女26名）
		臨時	9名

I 地区の概況

国見町は、中通り最北端に位置し、県都福島市まで16.5km、北は宮城県白石市、南は桑折町、東は阿武隈川を挟み梁川町に接している。町を二分するように国道4号線が南北に縦断し、平行して藤田、貝田二つの駅を含むJR東北本線が走り、東北新幹線、東北縦貫自動車道も縦断する極めて重要な交通の要所となっている。更に、自動車道には国見インターチェンジが設置され、首都圏、東北各都市にも、短時間で通じる交通の便には恵まれた所である。

町の総面積は3790ha、うち35%の1328haが農用地、5.9%の224haが宅地として利用されている。国見ICを中心に企業立地も進められている。

農地の利用は、水田47.9%の636ha、樹園地39.8%の529haで桃を中心とした果樹地帯である。また、コシヒカリ等の銘柄米を主とした県指定の水稲種子圃場84haを栽培し、約500tの優良種子を県内外の稲作農家へ供給している農業を中心とした町である。

Ⅱ 50年のあゆみ

1 地区農業の変遷

戦中戦後の食料難から次第に解放され、朝鮮戦争の特需景気に湧く戦後日本経済は、産業間格差拡大によって、農村の形態を大幅に変化させた。まず、農家戸数は25年をピークに全国的に少しずつ減少に転じながら、図表1に見られるように、形態は極端な変化を来している。25年には、専業農家の割合が75%であったものが10年後の35年には44%となり、平成2年には、15%弱で、逆に第2種兼業農家は、9%から67%となり、その傾向は更に強まっている。

次に、作物の変化は、36年の農業基本法以来米麦中心から選択作物に切り変わり、耕地面積が減少している中で、40年には果樹栽培面積が25年に比して約8倍に増加して、その比率が大きくなっている事を示している。

また、肥料生産も兼ねる有畜農業が基本であった農法で、各農家は牛、豚、鶏等何らかの家畜と係わりを持っていたが、専業化されて畜産公害と言う新たな問題を生み出してきた。和牛飼育農家は35年には559戸で573頭、平成2年には30戸で118頭、鶏では実に1179戸で1万1000羽、豚は149戸で220頭飼育されていたものが、

図表1 地区農業の変遷（農業センサスより）

項目		年次					
		25	35	40	50	60	2
総農家戸数 (戸)		1,617	1,631	1,608	1,531	1,417	1,148
うち 専業 (戸)		1,209	717	354	215	197	170
I種兼業 (戸)		264	606	775	550	286	204
II種兼業 (戸)		144	308	479	766	934	774
経営耕地面積 (ha)		1,432	1,457	1,429	1,285	1,201	1,104
うち 田 (ha)		735	732	729	646	596	579
畑 (ha)		438	408	327	190	155	127
樹園地 (ha)		259	318	373	449	450	398
うち桑園 (ha)		207	186	153	136	92	40
収 穫 面 積	稲 (ha)	714	513	690	612	557	483
	麦類 (ha)	379	145	167	1		1
	野菜類 (ha)	85	109	100	59	49	44
	果実類 (ha)	48	132	373	277	356	351
	ハウス (ha)				8	5	4
	飼料用作物 (ha)	22	4	2	9	16	11
	たばこ (ha)		12	10	2	2	1
飼 育 頭 羽 数	乳用牛 (頭)	18	66	16	101	117	76
	肉用牛 (頭)	539	573	285	119	147	118
	豚 (頭)	244	220	488	1,815	3,754	8,367
	にわとり (千羽)	4	11	15	46	35	316
	ブロイラー (千羽)				144	237	80

(注) ブロイラー 50年以降は出荷羽数

2年には鶏が6戸で31万6000羽、豚が11戸で8367頭とそれぞれが専門化し、選択的拡大再生産と言う農基法農法が普及し定着し、新しい問題を提起してきている。更に、国際競争の厳しい環境に遭遇することとなった。

また、農業構造改善事業により、水田の基盤整備事業が進められ、大型機械の導入が可能な耕地規模となったものの、余剰米を抱えた政府の減反政策により、機械の有効利用は困難な状況になっている。農業従事者の高齢化、後継者

の不足、転業、土地の荒廃等々当地区においても深刻な問題となってきている。

2 経営の推移

戦後農村の民主化は、農地改革を柱とする自作農政策によって進められた。農業会からの転身農協の他に雨後のタケノコのように各地に農協が設立されたが、多くの農協は経営と言うにはお粗末な有り様で政策実行の手段たり得なかつ

図表2 主な勘定と事業の推移

(単位：千円、共済：百万円)

項目		年度						
		24	30	39 (合併時)	40	50	60	5
正組合員戸数(戸)		1,595	1,757	1,788	1,603	1,557	1,565	1,510
准組合員戸数(戸)		150	239	261	289	489	509	631
資 産	余 裕 金	15,060	18,487	131,301	161,517	1,840,493	8,482,679	12,070,713
	貸 出 金	5,831	44,761	161,663	271,424	1,407,753	1,859,070	3,911,776
	その他流動資産		26,477	55,786	59,775	335,746	259,270	248,030
	固 定 資 産	4,607	10,579	21,232	45,591	146,230	495,687	625,050
産	外 部 出 資	514	6,390	9,103	10,435	36,256	108,101	174,166
負 債 及 び 資 本	貯 金	29,445	70,727	309,112	399,822	3,015,288	9,447,872	14,502,460
	借 入 金	820	20,166	32,815	33,828	71,056	50,002	22,406
	そ の 他 負 債		1,756	22,073	99,730	520,992	1,223,247	1,735,242
	出 資 金	5,495	13,869	19,520	22,576	151,180	325,268	440,808
	積 立 金	11	224			2,953	117,127	276,176
本	剰 余 金	-84	-48	-4,435	-7,214	5,009	41,291	52,633
主 な 事 業 実 績	販 売 取 扱 高	45,896	143,674	234,423	342,668	1,633,221	2,196,390	1,849,604
	うち 米 穀		120,703	170,839	223,359	525,407	654,754	398,117
	水稲種子				5,913	68,757	161,467	205,835
	果 実		10,210	34,408	65,267	485,901	1,042,757	955,278
	野 菜		4,809	4,156	20,944	54,141	87,988	92,458
	畜 産		7,752	25,020	27,184	255,835	158,778	182,390
	蚕 繭					243,180	90,646	15,526
	購 買 取 扱 高	9,875	61,111	134,289	184,520	718,372	1,593,484	1,516,609
	うち 生産資材		44,085	103,002	146,657	585,960	901,090	857,394
	生活資材		17,026	31,287	37,863	132,412	245,966	143,165
Aコープ						446,428	516,050	
長期共済保有高			736	909	13,034	79,544	126,547	

- (注) 1 合併時は最新合併時の前日(40.2.28) 他は年度末 合併以前の年度は合併参加農協の合計
 2 24、30年度には大枝農協を含まない
 3 24年度の事業実績には石母田、藤田町北部を含まない

た。赤字経営の農協が続出する中で、26年の「農協再建整備法」や28年の「連合会整備促進法」31年の「農協整備特別措置法」等の対策が取られ、28年10月の「町村合併促進法」による一町村はおおむね8000人以上の考え方が、一町村一農協等農協の適正規模を論じさせ、36年には「農協合併促進法」「同助成法」が施行され、農協組織再編が進められた。

当農協地区には解散した農協もあり、組合員の不信感は長く残った。39年の合併に持ち寄った経営赤字は443万円で出資金の22.7%にも及ぶものであった。合併10年はまさに苦難の経営であったが、50年には逆に500万円の黒字計上できるまでになり、7.7倍の出資金となり、各種の施設・事業に取組めるようになった。その事が更にその後の躍進の基礎となった。しかし、突然降って沸いた県北流域下水道処理施設は、国見町の広大な一等農地から40haを潰すことになり、連鎖的に農業からの転換を示唆した。反対運動も条件闘争となり土地買収は完了し着工された。農協の貯金高が増えたが、購買高は伸び悩み、販売高も横ばいとなり、農業生産の拡大傾向に終止符を打つこととなった。町の就業構造比率も変化し、農業地区から混住地区に変わり金融事業のウェートが高まって来ている

のである。

3 農業協同組合の設立

J A 福島国見町の前身は、町村合併前の小坂村農業協同組合、藤田町北部農業協同組合、石母田農業協同組合、森江野村農業協同組合、大木戸村農業協同組合、および大枝村農業協同組合の一部である。

協同組合的組織は、明治時代にあったが、戦後の協同組合の前身は、昭和18年「農業団体法」によって、戦争遂行の協力組織として農会と産業組合が統合してできた農業会である。その農業会が占領軍GHQの農地改革をはじめとする農村民主化の一環として22年11月公布された「農業協同組合法」（法132号）によって、各町村の農協に転身したのである。

23年に藤田町を除いて、それぞれの村の農業会の資産を受け継いで誕生した。藤田町には農業会から転身した藤田町と独自の藤田町北部、山崎、石母田の4つの農協が設立された。

4 合併の経過

昭和25年に商工業を兼業する農家を中心とな

図表3 合併参加農協の概要

合併年月日	組合名	組合長名	組合員数	役員数	職員数
29. 3. 31	藤田町第一	赤井畑 直衛	383	13	5
	石母田	菊地 武治	212	9	5
40. 3. 1	藤田第一	赤井畑 直衛	591	13	11
	小坂	佐藤善右衛門	464	13	12
	森江野	谷口 亀之助	457	13	18
	大木戸	八島 福太郎	360	13	14
	国見町大枝	鈴木 幸吉	174	6	

って組織していた藤田町商工組合が、種々の制度資金を利用するには農協組織とする必要があると、藤田町北部農協を吸収して変身し、27年には藤田町第一農協と名称を変えた。山崎農協は27年に解散したので、町には藤田町第一、石母田、藤田町の3つの農協が併存していた。

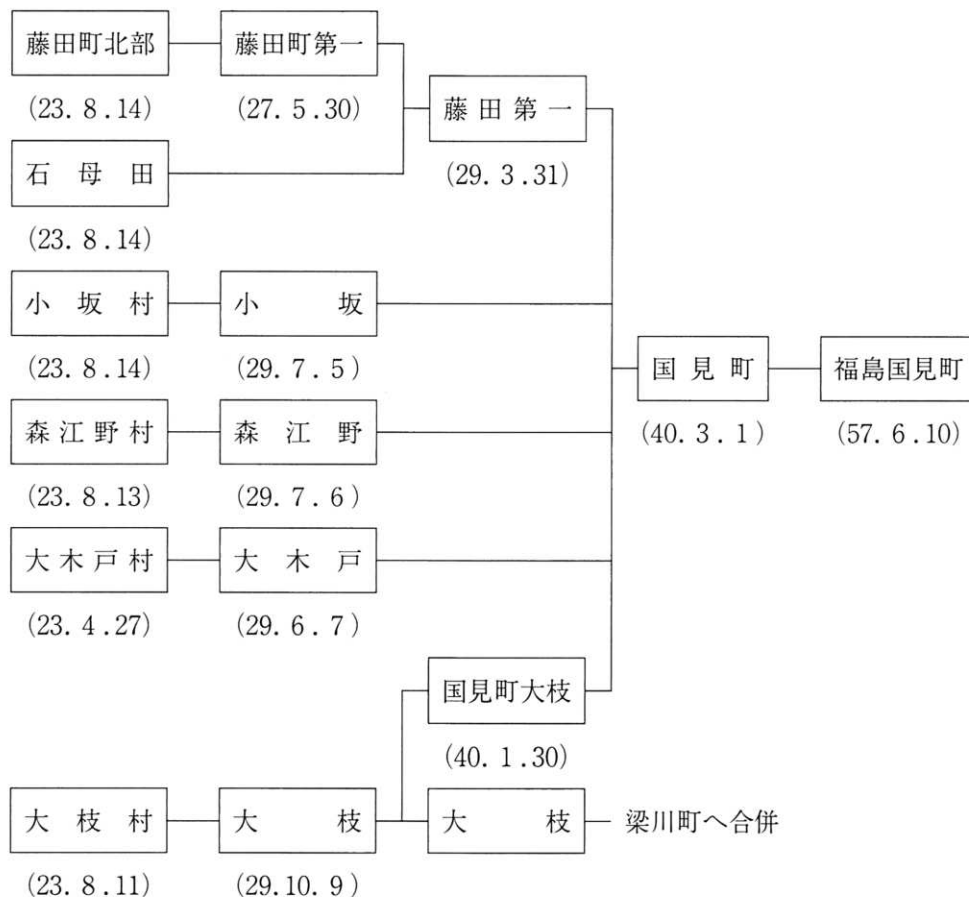
28年2月には町村合併を前に、県、地方事務所、農業委員会、町議会等が強力に一本化を推進したがまとまりきれなかった。同年11月地方事務所から、今年の冷害対策営農資金は農協が強化されなければ導入できないと言われ、トップ会談が町議員も参加して行われた。その結果12月に第一と石母田が合併仮契約をし翌年3月31日藤田第一農協として新発足した。藤田町農

協は参加しなかった。

28年の町村合併促進法によりいち早く合併モデル町村に指定され、29年3月31日藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村の1町4村が合併して「国見町」が発足した。大枝村は県の調停により一旦国見町に合併した後に住民投票により境界変更と言う形をとって、東大枝地区が7月に梁川町に分村編入した。

町村合併にともない国見町内の農協は藤田第一、藤田町、小坂、森江野、大木戸、大枝の6農協となった。藤田町農協は32年に解散命令により消滅する。また大枝村農協は、後に西大枝・川内地区の組合員が国見町大枝農業協同組合を分離設立して国見町農協の合併に参加した。

図表4 合併等の経緯



40年3月1日町内全農協が合併して国見町農業協同組合が誕生した。

5 総合農協としての事業展開

合併した国見町農協の地区内は、米麦を中心とした地区内最大の農業地帯の森江野の養蚕農家・果樹農家は専門農協に結集しており、山間地を多く擁し果樹農家が多い大木戸・小坂地区、商工業・商店街を主に信用事業に力点を置く藤田地区、同じ藤田地区内でも果樹地帯の石母田地区、更に分村合併の苦しい経験をした大

枝と一緒ににはなったもののそれぞれの特質・内容は異質のものであった。

44年養蚕組合は吸収合併されたが、果樹農家は依然として専門農協と当総合農協とに分かれて競合しあっている現況にある。それだけに、一方で良かれと判断する事も別の地区から見れば過大投資に見え、経営的にも思うような施策はなかなかできなかった。しかし、総合農協を拠点とする果樹農家に不利益を与えない様に専門農協以上の施設・対応を図らなければとの努力がなされてきた。

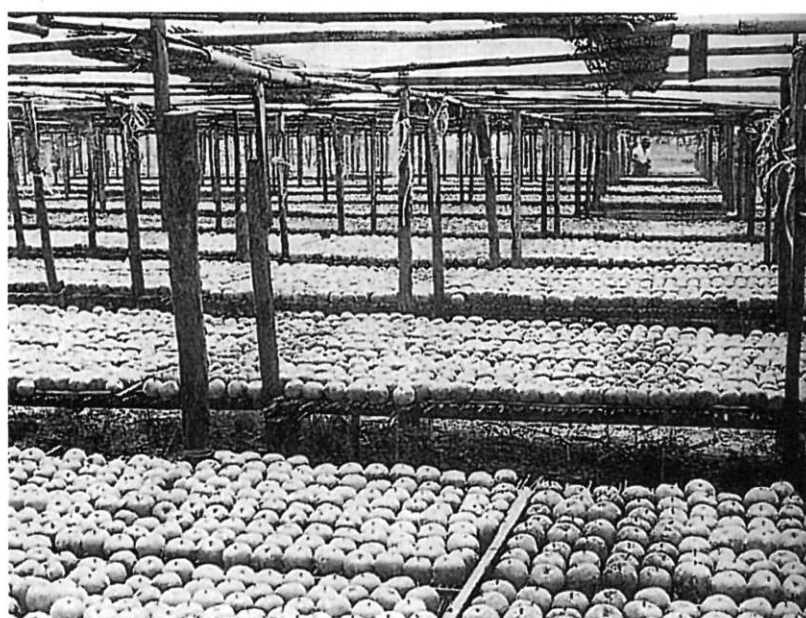
Ⅲ 年 表

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
23年		6.14	藤田町農協 国見町藤田農協と名称変更
4.27	大木戸村農業協同組合発足	7.5	小坂農業協同組合と名称変更
7.17	山崎農業協同組合発足	7.6	森江野農業協同組合と名称変更
8.9	藤田町農業協同組合発足	7.6	東大枝地区分村して梁川町に編入
8.11	大枝村農業協同組合発足	10.9	大枝農業協同組合と名称変更
8.13	森江野村農業協同組合発足	30年	
8.14	小坂村農業協同組合発足	4.14	国見町藤田農協 解散命令により解散
8.14	石母田農業協同組合発足	32年	
8.14	藤田町北部農業協同組合発足	5.31	系統利用優良 経済連表彰（森江野）
27年		35年	
5.30	山崎農協解散	5.31	系統利用優良 経済連表彰（大木戸）
5.30	藤田町北部農協 藤田町第一農協と名称変更	38年	
29年		6.21	共済事業優績 全共連表彰（藤田）
3.31	町村合併促進法により藤田町、小坂村、森江野村、大木戸村、大枝村が合併して国見町誕生	39年	
3.31	藤田町第一農協と石母田農協が合併して藤田第一農協発足	5.21	優良農業倉庫 全販連表彰（小坂）
6.7	大木戸農業協同組合と名称変更	6.10	共済事業優績 全共連表彰（大木戸）
		6.12	共済事業優績 全共連表彰（小坂）
		40年	
		1.30	大枝農協分割し国見町大枝農協と大枝農となる

県北地方の農業協同組合

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
3. 1	藤田第一農協、小坂農協、森江野農協、大木戸農協、国見町大枝農協が合併して国見町農業協同組合発足	51年	
10.18	大枝支所事務所竣工	4.20	第11回通常総会（会館建設可決、店舗建設保留）
12.24	有線放送電話工事沖電気(株)と契約	6.10	農機具センター建設
41年		12.20	農協会館落成
4.22	有線放送電話業務認可	52年	
5.30	系統利用優良 経済連表彰	4.15	国見町農業者年金協議会設立
8.19	41年度合併モデル農協指定	53年	
10. 1	有線放送電話開通	8.22	施設園芸組合設立
42年		54年	
2. 1	有線放送電話公社線と接続通話開始	2.13	為替テレックス業務開始
8.10	本所改築	2.28	稚蚕飼育所10周年記念式典
12.15	水稻種子センター施設建設	7.25	ライスセンター利用組合設立
43年		9.10	ライスセンター施設稼働
3.21	小坂支所加工所廃止	55年	
12. 1	森江野支所給油所建設	2.10	第1回総代320名選出
44年		4.22	第1回通常総代会（店舗建設可決）
4.20	果樹共同選果場建設	5.28	系統利用優良 経済連表彰
6. 2	国見町養蚕農協を吸収合併	10.23	Aコープ国見店開店（県Aコープチェーン第32番店）
9. 2	稚蚕共同飼育所建設	56年	
45年		5.20	共済事業優績 全共連表彰
5.28	系統利用優良 経済連表彰	7.15	果樹共同選果場増設
6.10	農業構造改善事業確認検査	57年	
7. 1	電算システム研究会発足	5.18	共済事業優績 全共連表彰
9.22	果樹共同選果場事務所建設	5.27	貯蓄成績優良 農林中金支店長表彰
46年		6.10	福島国見町農業協同組合と名称変更
4.17	役員選任制から選挙制に変わる	9.20	オンライン業務開始
10. 1	電算システム（オフライン）導入	11.19	種子センターの種子乾燥調整施設完成
47年		58年	
1.31	4号国道側に給油所新設	7.22	東北新幹線日陰影響調査
2.19	育苗センター新設	59年	
3. 1	果樹共同選果場増築増設	2.13	県内農協間貯金ネット取引開始
3. 9	育苗センター利用組合設立総会	8. 7	水稻航空防除開始
5.25	貯蓄成績優秀 農林中金理事長表彰	8.13	全国銀行協会内国為替制度加入
48年		9.10	他用途米対策会議
12.27	オイルショックによる狂乱物価と生産資材不足緊急対策会議	10.25	合併20周年記念式典
49年		60年	
5.29	系統利用優良 経済連表彰	5.28	系統利用優良 経済連表彰
10.18	農産物集出荷所建設	7. 4	Aコープ国見店Aコープチェーン全国大会で優秀賞受賞
11.15	育苗センター施設増設	7.23	農協会館増築工事着工
50年		61年	
6. 1	有線放送電話公社線接続時間短縮	5.22	共済事業優績 全共連表彰
7. 2	阿武隈川流域下水道処理場徳江川原設置反対決議	5.27	貯蓄成績優良 農林中金支店長表彰
12. 1	有線放送電話公社線接続廃止	9. 9	種子センターの消毒装置設置
		12.10	給油所改築改装

年月日	主 な 事 績	年月日	主 な 事 績
12.11	県信用事業経営指導検査	3年	
62年		1.9	A T M日曜日稼働
5.19	系統利用優秀 経済連表彰	1.10	コイン精米所森江野支所前にオープン
5.21	共済事業優績 全共連表彰	2.16	小集団活動発表大会
6.1	菊地組合長 五連常任監事就任	5.16	第2次ブラジル青年女子研修生帰国
8.8	森江野支所 店舗建設工事	7.10	食材配送事業開始
9.2	森江野倉庫用地町へ売却により低温倉庫新築工事開始	7.30	森江野支所集出荷所改築
11.24	森江野支所 新事務所にて業務開始	8.10	共選場出労交流事業開始 (J A福島市野田町のなしと当J Aのもも)
11.24	森江野店舗をAコープ国見店のサブ店として営業 (Aコープ森江野)	9.22	C Dオンラインネット取扱開始
		10.21	準低温倉庫落成
63年		4年	
5.19	共済事業優績 全共連表彰	1.25	4週6休制導入
10.28	Aコープ国見店大幅改装オープン	7.4	J Aくにみ旅行センターオープン
11.9	ブラジル青年女子研修生受入協議会設置	11.1	第14回国見町農業祭 名称を「ふれあいJ A祭」とする
元年		11.9	J A組合長杯ゲートボール大会設置
4.10	ブラジル青年女子研修生受入 (9名)	11.23	J A組合長杯家庭バレーボール大会設置
5.29	系統利用優良 経済連表彰	12.7	りんごジュース「そのまんま」発売
6.1	Aコープ店P O Sシステム導入	12.19	伊達地方J A合併研究会発足
7.1	L P G安全化システム導入	5年	
2年		5.18	貯蓄成績優秀中金理事長表彰
3.28	ブラジル青年女子研修生帰国	12.3	小坂支所改築
6.1	菊地組合長 五連副会長就任	6年	
6.8	婦人部若妻部会結成	1.17	伊達畜産農業協同組合連合会解散
7.15	第2次ブラジル青年女子研修生受入		
9.19	小集団活動キックオフ大会		



りんご人工着色作業 (45年頃)

IV 資 料

(平成5年度末現在)

1 組合員

()は戸数

正組合員		准組合員		合 計	
個人	法人	個人	団体	個人	法・団
1,790	2	822	2	2,612	4
(1,510)		(631)		(2,141)	

2 役員及び参事

代表理事組合長	理事 八 島 健 一
菊 地 太 三	理事 安 藤 良 一
常務理事	理事 太 田 久 吉
佐 藤 俊 雄	理事 佐 野 喜代志
第一理事	理事 中 村 一 郎
高 橋 正 明	理事 大 津 征四郎
理事 佐久間 吉 司	
理事 鈴 木 政 治	代表監事
理事 阿 部 隆 夫	菊 地 昭 平
理事 後 藤 一	監事 阿 部 栄 作
理事 渋谷 主一郎	監事 佐 藤 昭 元
理事 佐久間 真 一	監事 菊 池 正 次
理事 大 沼 春 男	監事 宍 戸 惣兵衛
理事 古 内 吉 蔵	
理事 井 砂 由 三	参事 村 上 晴 夫

3 職 員

男	女	計	うち営農 指導員	うち生活 指導員
48	26	74	4	1

4 協力組織

名 称	代 表 者	会 員 数
J A 部落長会	松 浦 金 一	56
農青連	阿 部 博	78
婦人部	八 島 後 子	848
年金友の会	吉 田 勝 由	1,603
共済億友会	石 川 博 義	364

5 生産部会

名 称	代 表 者	会 員 数
もも部会	吉 田 勝 基	450
加工もも部会	佐 藤 丈 男	455
りんご部会	長 谷 川敏朗	140
プラム部会	宍 戸 弥 七	277
サクランボ部会	阿 部 重 蔵	99
アンボ柿部会	松 浦 幹 男	260
生柿部会	渋谷 節 男	20
いちご部会	松 浦 智 義	18
野菜部会	阿 部 博	150
アスパラ部会	菊 地 喜 平	9
種子生産組合	菊 地 太 三	124
ライスセンター 利用組合	五十嵐 衛	287
育苗センター 利用組合	宍 戸 文 平	615
養蚕部会	大 津 義 隆	44
和牛部会	安 藤 留 作	28

6 主な施設

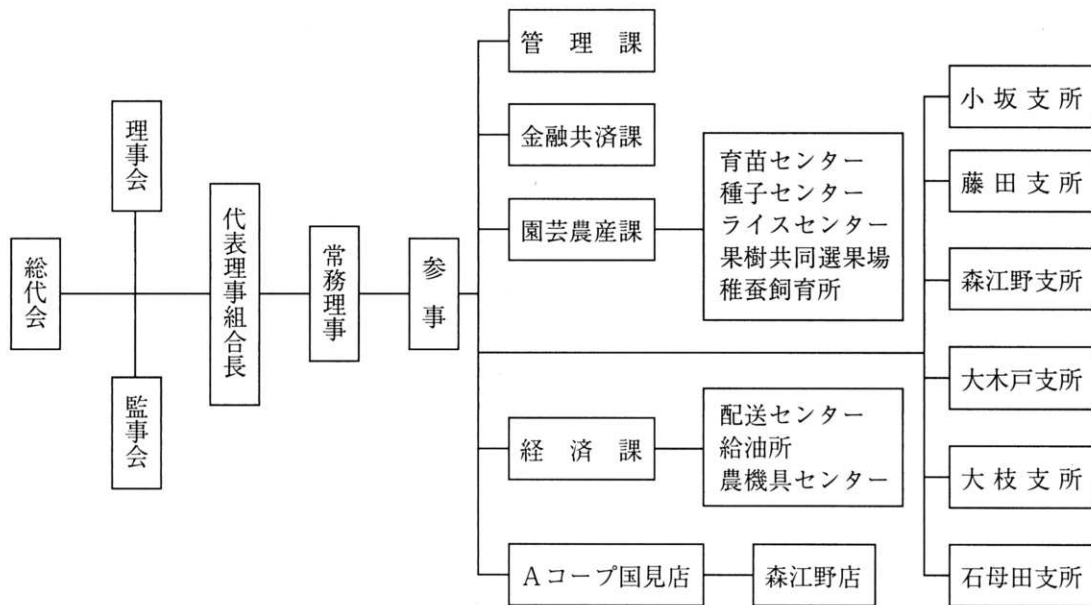
名 称	所 在 地
農協会館 (本所・藤田支所)	藤田字一丁田三5
小坂支所	内谷字西堂45
森江野 〃	徳江字中谷地田26-1
大木戸 〃	大木戸字幡門場4-4
大枝 〃	西大枝字元寺西1
石母田 〃	石母田字樋口9
有線放送事務所	藤田字一丁田三5
給油所	〃 字日渡三3-13
農機具センター	〃 〃 3-14
果樹共同選果場	森山字西上野17-1
集出荷所	〃 〃
育苗センター	〃 字沖44
稚蚕飼育所	〃 字辻西7
ライスセンター	〃 〃 13-14
準低温農業倉庫	〃 字沖43-13
種子センター	塚野目字北塚
A コープ店舗	藤田字一丁田三5
森江野支所集荷所	徳江字中谷地田
農業倉庫	支所 4 棟
購買倉庫	支所11棟

7 歴代組合長・常勤理事・参事

組 合 長		常 務 理 事	
40～41	谷口亀之助	41～43	佐藤善右衛門
41～43	赤井畑直衛	41～43	八島福太郎
43～47	佐藤善右衛門	元～2	鴨田 安蔵
47～47	(佐藤直次)	2～	佐藤 俊雄
47～	菊地 太三		

参 事			
40～41	後藤豊三郎	52～57	関口 正一
41～44	佐野 貞治	57～62	佐藤 秀男
44～47	玉手 正造	62～5	松浦 宏
47～52	佐藤 茂雄	5～	村上 晴夫

8 経営管理機構



9 合併前の歴代組合長

藤田町第一農協

23～27	佐藤 五六	27～29	赤井畑直衛
-------	-------	-------	-------

石母田農協

23～29	菊地 武治
-------	-------

藤田第一農協

29～40	赤井畑直衛
-------	-------

小坂農協

23～38	菅野 秀明	38～40	佐藤善右衛門
-------	-------	-------	--------

大木戸農協

23～30	松浦市三郎	35～38	毛利 久
30～30	(酒井 保)	38～40	八島福太郎
30～35	酒井 保		

森江野農協

23～40	谷口亀之助
-------	-------

国見町大枝農協

39～40	鈴木 幸吉
-------	-------